

新潟・歴史まちづくり宣言

(暫定版)

第45回全国町並みゼミは、柳都として知られ、中世から開かれた港町・新潟市のまちなかを舞台に2022年6月11～12日の二日間にわたって開催された。心配されたコロナ感染者数もおさまりつつあり、県外からの200名を含む約400名が参加、「市民の活動でつなげる歴史まちづくり：みなとまち新潟から考える」をテーマに、初夏の新潟を満喫しつつ、歴史まちづくりへの新たな展望を開くべくあつい討論を繰り広げた。

新潟は、これまで必ずしも歴史的町並みの都市とは認識されてこなかった。しかし新潟まち遺産の会をはじめとする市民運動が成果をあげ、重要伝統的建造物群保存地区中心の町並み保存とは一線を画する歴史まちづくりの可能性を切りひらきつつある。1日目の昼から始まった分科会は、それら活動に取り組む各団体の担当で運営され、参加者は、新潟まちなかの六地区に分かれ、それぞれまちあるきの後パネルディスカッションに臨んだ。

堀割が縦横にめぐっていた、みなとまち新潟の水環境をとりあげた第一分科会「港町と水辺のまちづくり」では、港町の面影や進取の気質を再認識し、まちづくりに活かすこと、ノスタルジーではなく現代の町並みにこそ必要という観点で水路の復活に取り組むことを確認した。

第二分科会は、小澤家住宅周辺地区を舞台に、歴史的町並みの保存・活用に関する制度が拡充する中「住民による町並み保全制度の選択」をいかに進めるかを話し合った。新潟では、景観計画の特別区域指定を住民提案で実現した経験があり、制度選択の前後に、専門家が正しい知識を住民に伝える支援体制の重要性が指摘された。「見方を増やすことで味方を増やす」「よかった、楽しかった」という声が広がるのが、数年後に結実するという、新しいまちづくりの時代を予感させる議論が展開された。

古町花街には、日本の伝統文化を包括的に継承する「生きた文化的景観」としての花街が継承されている。第三分科会では「花街のまちづくりと文化的景観」をテーマに掲げ、その文化をどう受け継ぐべきかを話し合った。花街文化を都市の魅力を発信する重要な文化歴史的財産として位置づけることで「景観まちづくり」から「空間まちづくり」へ深化する必要性と可能性を確認した。

第四分科会「歴史的環境と芸術文化」も、アートが随所でまちづくりに重要な役割を果たしている新潟ならではのテーマである。周囲から際立つ図としての従来のアートではなく、歴史を刻んだ空間にひそむ心をゆらす、地としてのアートをアートが発見し、発信し、人々の意識や心に働き開ける事例を、東京谷中、新発田、横浜、ダンサー堀川久子さんの思いを通じ話し合い、アートが人をつなげる力を確認した。

第五分科会は、若い世代の出店が相次ぐ白山神社の門前町・上古町商店街を事例に「門前町の商店街に若者が係わる理由」を解き明かすことをテーマとした。上古町では、まちづくりのセンスと意志を持つ若手起業家がまちと出会って出店し、やがて地域の信頼を得

て商店街の理事長になり、その姿を見てさらに若い起業家が出店する、という好循環が起きている。その背後には、老舗の大店（旦那衆）が少なく若者のアイデアを受け入れる風土があることを明らかにした。

第六分科会は、信濃川対岸にある新潟島より起源が古いと言われる港町・沼垂と流作場に形成された路地の町・天明町を舞台に「路地のある町をどう安全に、魅力的にしていけるか」をテーマとした。脱炭素社会におけるこのような木造密集市街地の再生の意義、外部の目には魅力的なものが同時に地域の課題であるという矛盾の解き方が話し合われ、同様の課題をかかえる東京・すみだ向島の、空き家となった長屋を改修し、アーティストたちが次々と店を開くという先行事例を学んだ。

夜の交流会は、食事は黙食であったが、食後はブロック別会議や全体の交流が行われ、リアルな会話を通して親交を深めることができた。

2 日目は全大会で、開会式、新潟の町並みと歴史まちづくりについての報告の後、古町芸妓の舞を鑑賞した。そして、奈良、小川町、有松、HUL に取り組む倉敷、内子、来年ゼミを開催する小樽からの報告があり、最後に各分科会からの報告を受けその成果を共有した。

午後は、引き続き「にいがた美しいまちなみフォーラム 2022」として、岡本哲志さんの「港町・新潟の価値と可能性：川と海の結節点に描かれた都市空間の履歴」と題する基調講演、そして「歴史を活かしたまちづくり」というテーマでパネルディスカッションが行われる。分科会等で学び討議した内容が整理され、理論化され、歴史まちづくりの新たな展望が開かれることが期待される。

本ゼミは、市民が連携し、都市の歴史をたどり、あらんかぎりの想像力で遺された歴史遺産を活かし、次の時代を切り開くという歴史まちづくりのあり方を描き出す画期的な成果をあげた。参加者一同、その成果を踏まえ、各地域にもどり、歴史まちづくりの大きなうねり起こすことを決意し、右宣言する。

2022 年 6 月 12 日

第 45 回全国町並みゼミ新潟市大会参加者一同